

ドイツのデュッセルドルフ、蕪りが漂う古い建物には、フは人口およそ五十八万、小さな商店が連なる。

人。ノルトライン・ヴェストファーレン州の州都で、えに「商業都市」ともいわれ、独最大の工業地帯ルールの中心都市である。半径五十キロ圏内に約九百万人を抱え、ビジネス適地として様々な企業が本社や支店を置いていて、日本企業も多く進出し、独で日本人も最も住む街(七千人超)である。毎年いくつかの国際見本市が開催され、年間二十万五千の企業が出展、百七十万人の来場者が世界各地から訪れる。

また、小さなパリと呼ぶ、州立美術館や市立美術館、洗練されたファッション街が形成され、旧市街地の歴史と伝統、生活文化の

わき出す 地域パワー

欧米都市に学ぶ

独デュッセルドルフ

▶3◀



山車が練り歩くクリスマスシーズン

市電行き交う等身大の街

旧市街地はビアホール、イルとすみ分けがされ、そのクドで面白い物がしやすいこと。次に、旧市街地はいつい上質な外観デザインだ。も活気があり、生活の便利その一つ、セブンスはカン性でゴチャゴチャした路地裏特有の楽しさが味わえる賞しており、楢田(だえん)の好きなどころを聞いたこと。そして、日本人が多形の吹き抜けはケーのPapiriとハム・ソーセイジの郷土ころ、まず、人口五十八万、日本人にとって必要なものがほとんど手に入るのことであった。

一方、車が入ることができない細い路地や広場に、ケニーヒスアレーは、ナポレオンが並ぶ。クリスマスシーズンには、通りはフェスから、人が集える情緒や安らぎ、開放性を与えている。

多くの欧州の中心市街地では、古くから街の中心部や教会前につくられた広場が、人と人との生活の場、情報交流の場を果たしてきた。今も広場を大切にしながら、人が集える情緒や安らぎ、開放性を与えている。

レオン占領時代に整備された。中央の川沿いにはマロリスマスデコローションの二エとプラタナスが植えられ、南北に約一キロの通り車が行き交う。広場は、ビアに有名ブランドが集積して、ホールに替わる。

デュッセルドルフでは歴史や街並みを生かした街なかに、公共交通の確立と、歴史・文化を生かした個性豊かな地域商業、つくりのどちなは都市型の専門店モール、商店法では日曜・祭日には、飲食店、キオスク、バーカ(商)創造研究所 代表取締役 松本大地